



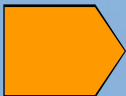
2019年3月期 第1四半期
決算補足資料

証券コード：6908

2018年8月2日

イリソ電子工業株式会社



-  **I. 2019.3期 第1四半期連結決算概要**
- II. 2019.3期 連結決算見通し**
- III. ESGへの取り組み**

売上、利益ともに第1四半期として過去最高を更新

- ・ 売上：車載市場のカーエレクトロニクス分野、インダストリアル市場が堅調に増加
- ・ 利益：4月開業の南通工場立ち上げ費用を、売上増と原価低減により吸収し増加。
営業利益率は南通工場関連費用を織り込み、前年同期比0.4ポイント減の17.6%
※南通工場関連費用：(18.3期1Q) 31百万円(売上比0.3%)→**営業外**費用に計上
(19.3期1Q) 155百万円(売上比1.4%)→**営業**費用に計上

【市場別】

- ・ 車載市場：ADASの進展により安全系(カメラ・レーダー)向けが約30%増加、
三次元可動BtoBコネクタ“Z-Move[®]”を含む電動車のパワートレイン系向けが約50%増加
- ・ インダストリアル市場：FA機器の需要増により13.4%増加

【地域別】

- ・ 国内：カーAVN分野で減少したが、カーエレクトロニクス分野、インダストリアル市場で増加
- ・ アメリカ：円高の影響で減収。為替影響を除くと新車販売の鈍化、保護貿易政策により横ばい
- ・ 中華・韓国圏：パワートレイン系向けを含むカーエレクトロニクス分野を中心に増収
- ・ 欧州：車載市場でカーエレクトロニクス分野の安全系向けを中心に増収

【トピックス】

- ・ 前期比2社増の8社のお客様から、当社の「**顧客価値創造**」の取り組みが評価され、多数のAwardを受賞。
アルパイン様からは3年連続、DENSO TEN AMERICA様からは2年連続での表彰。
外資系企業では、APTIV(旧DELPHI)様から初受賞

2. 2019年3月期第1四半期連結業績(前年同期比)



単位：百万円

	18.3期 第1四半期	19.3期 第1四半期	前年同期比
売上高	10,219	10,886	666 106.5%
営業利益	1,836 (18.0%)	1,918 (17.6%)	81 104.5%
経常利益	1,785 (17.5%)	2,074 (19.1%)	289 116.2%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1,396 (13.7%)	1,589 (14.6%)	193 113.8%
EPS	58.97円	67.13円	
為替レート 期中平均	ドル 111.61円 ユーロ 123.14円	108.71円 129.39円	△2.90円 6.25円

3. 売上高詳細(市場別)

単位：百万円

		19.3期 第1四半期	前年同期比	構成	増減要因
オートモーティブ(車載)		9,279	107.9%	85.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・ ADASや電動化、電装化の進展を背景にエレクトロニクス分野が好調 ・ ADAS関連で安全系向けが前年同期比約130% ・ 電動化関連でパワートレイン系向けが前年同期比約150%
区	AVN (カーAV、ナビゲーションシステム等)	4,383	102.0%	40.2%	
分	エレクトロニクス (安全系、電装関連、駆動系等)	4,896	113.8%	45.0%	
コンシューマー (OA、ゲーム機、デジカメ、携帯電話、TV等)		998	92.0%	9.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・ OA機器(プリンター、複合機)向けが増加するもゲーム機向けを中心に減少
インダストリアル (産業機器等)		609	113.4%	5.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・ PLC、サーボアンプ、インバーター向け等が好調を維持
合計		10,886	106.5%	100.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外比率79.2%

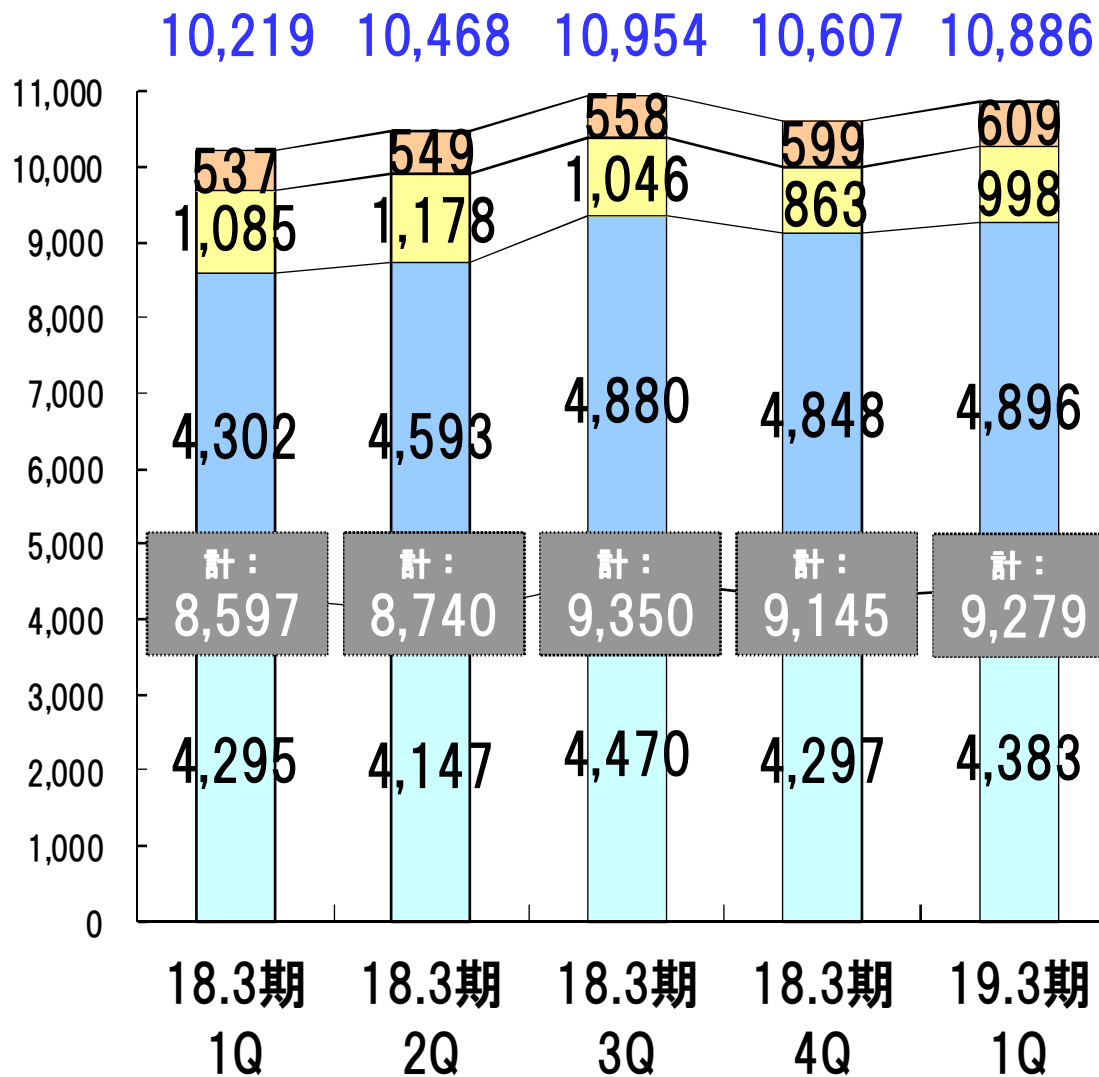
注：AVNIは、オーディオビジュアルナビゲーションの略で、カーオーディオ全般、ナビゲーションシステム等のこと



4. 市場別売上高(四半期推移)



単位：百万円



◆対18.3期1Q

インダストリアル
113.4%

・ PLC、サーボアンプ
向け等で増加
・ 初めて6億円台へ

コンシューマー
92.0%

・ ゲーム機向け、デジ
カメ向け等で減少

車載
(エレ)
113.8%

車載
(全体)
107.9%

・ カーエレクトロニク
ス分野の最高売上更新。
安全系とパワートレイ
ン系向けが牽引

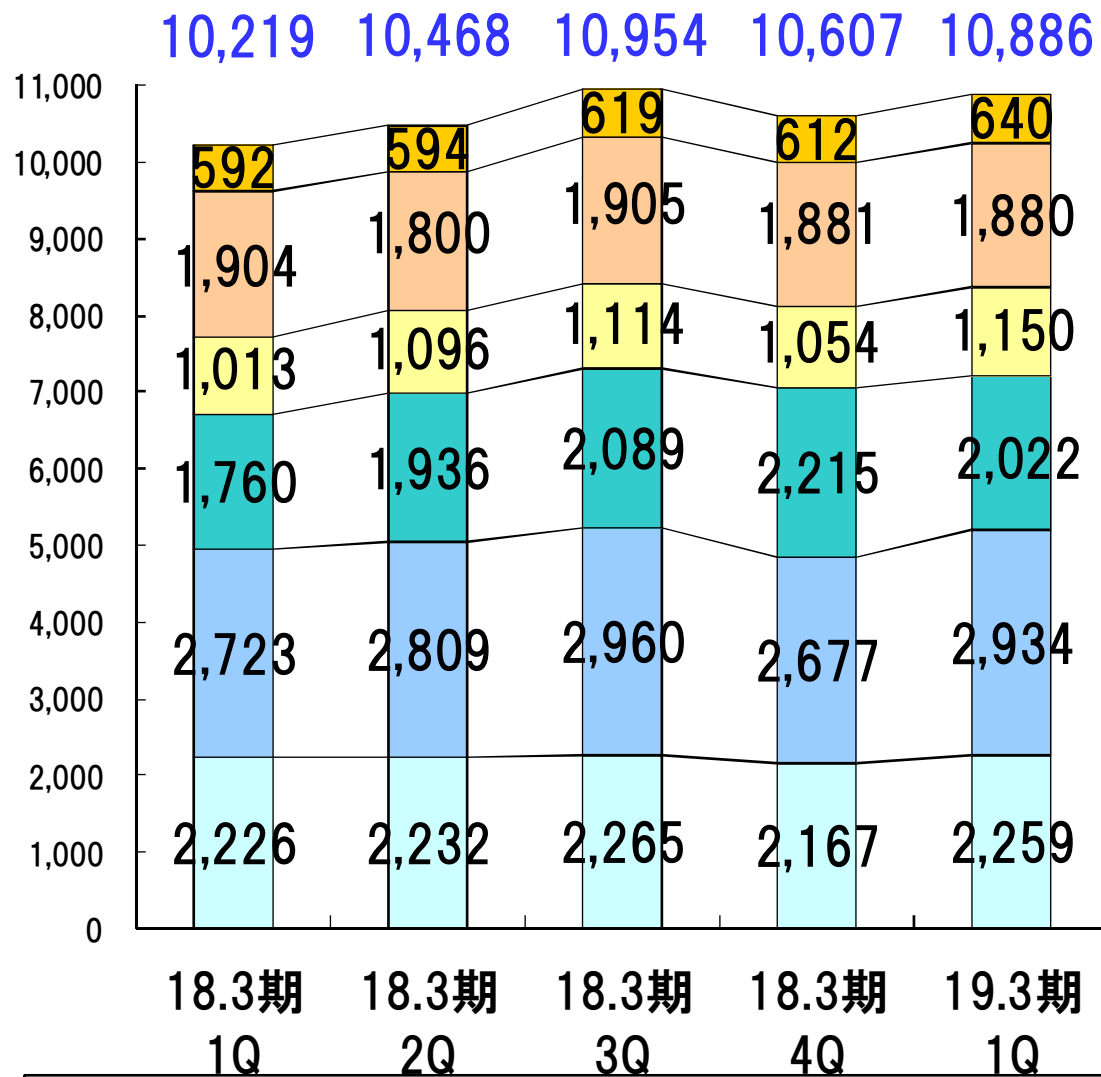
車載
(AVN)
102.0%

■車載 (AVN) ■車載 (エレクトロニクス) ■コンシューマー ■インダストリアル

5. 地域別売上高(四半期推移)



単位：百万円



◆対18.3期1Q

タイランド
108.2%

米国
98.7%

シンガポール
113.4%

欧州
114.9%

中華・韓国圏
107.7%

日本
101.5%

・ 車載市場が増加

・ 円高の影響で減少
・ 為替影響を除くと新車販売の鈍化、保護貿易政策により横ばい

・ カーエレクトロニクス分野が好調

・ 安全系が好調
・ 対前期4Q比では一部顧客でVMI取引開始に伴う在庫消化の影響で減少

・ パワートレイン系向けを含むカーエレクトロニクス分野を中心に増加

カーAVN分野で減少したが、カーエレクトロニクス分野、インダストリアル市場で増加

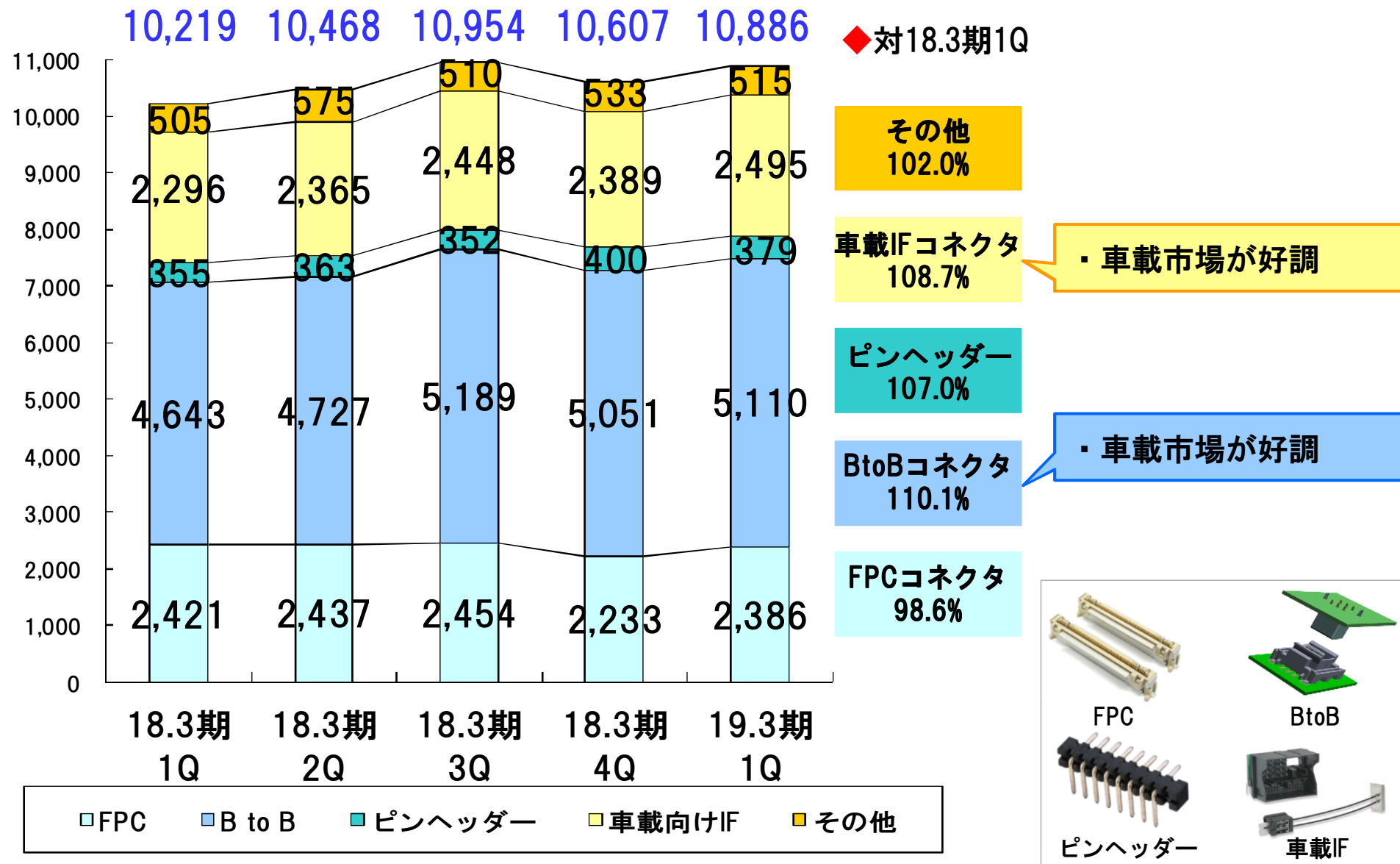
□日本 □中華・韓国圏 □欧州 □シンガポール □米国 □タイランド



6. 製品別売上高(四半期推移)



単位：百万円



7. 損益計算書(連結)(前年同期比)



単位：百万円

	18.3期 第1四半期		19.3期 第1四半期		前年同期比	
売上高	10,219	100.0%	10,886	100.0%	666	106.5%
売上原価	6,409	62.7%	6,797	62.4%	387	106.1%
売上総利益	3,809	37.3%	4,089	37.6%	279	107.4%
販売管理費	1,973	19.0%	2,171	19.9%	197	110.0%
営業利益	1,836	18.0%	1,918	17.6%	81	104.5%
営業外収益	13	0.1%	173	1.6%	160	1330.8%
営業外費用	64	0.6%	16	0.1%	△47	25.0%
経常利益	1,785	17.5%	2,074	19.1%	289	116.2%
特別損益	△18	△0.2%	△15	△0.1%	△3	83.3%
税前利益	1,766	17.3%	2,058	18.9%	292	116.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,396	13.7%	1,589	14.6%	193	113.8%
E P S	58.97		67.13		-	
為替レート (ドル/ユーロ)	111.61円/		108.71円/		△2.90円/	
	123.14円		129.39円		6.25円	



8. 貸借対照表(連結)(前期末比)



単位：百万円

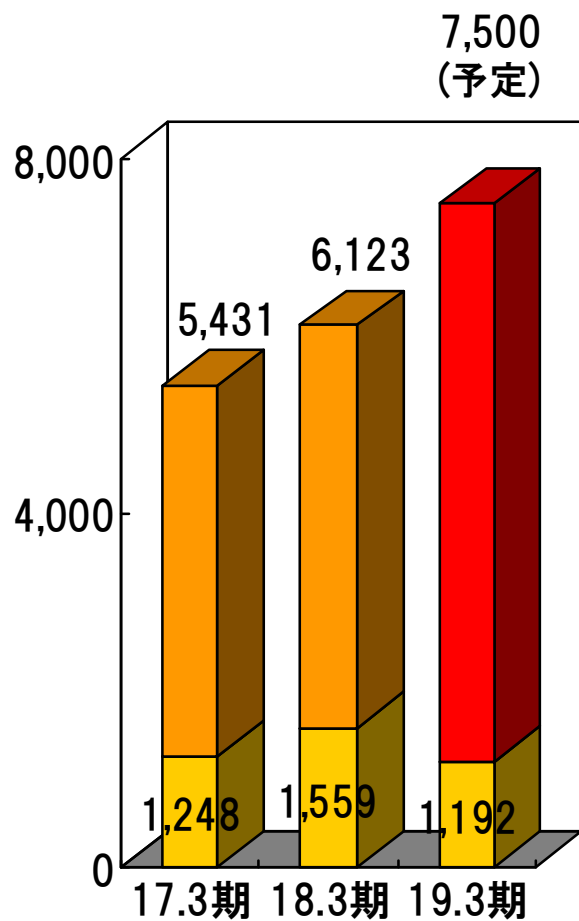
	18.3期	19.3期 第1四半期	前期末比	増減要因
流動資産	35,858 59.7%	34,896 58.7%	△962	現金及び預金△1,782 受取手形及び売掛金241 原材料及び貯蔵品342
固定資産	24,224 40.3%	24,528 41.3%	303	有形固定資産446
資産合計	60,083 100.0%	59,424 100.0%	△658	
流動負債	10,046 16.7%	8,753 14.7%	△1,292	支払手形及び買掛金△304 未払法人税等△582 未払金△328
固定負債	753 1.3%	742 1.2%	△11	
負債合計	10,800 18.0%	9,496 16.0%	△1,304	
株主資本	47,482 79.0%	47,887 80.6%	405	利益剰余金405
その他の 包括利益累計額	1,530 2.5%	1,782 3.0%	252	為替換算調整勘定251
非支配株主持分	270 0.4%	258 0.4%	△12	
純資産合計	49,283 82.0%	49,928 84.0%	645	1株純資産 2,098.14円 (前期末 2,070.36円)
負債・純資産 合計	60,083 100.0%	59,424 100.0%	△658	



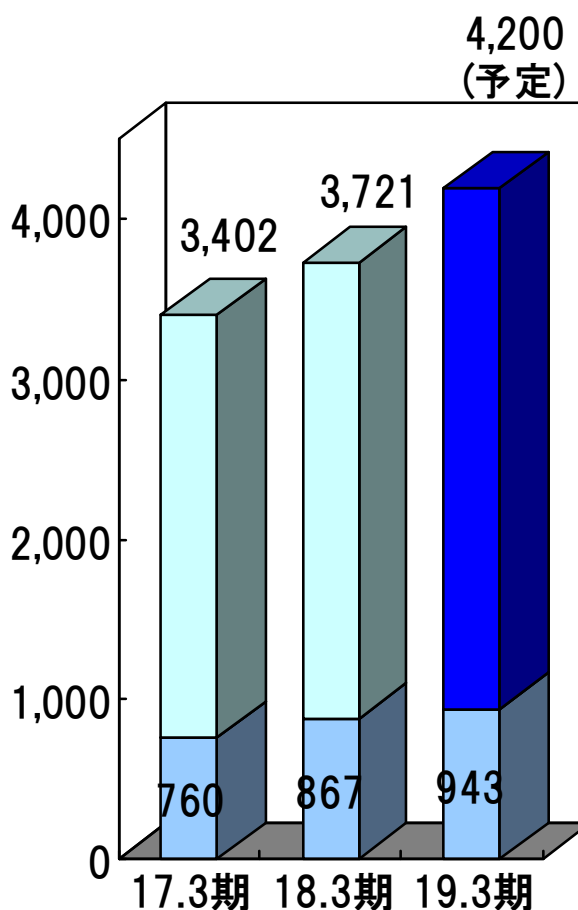
9. 設備投資・減価償却・研究開発



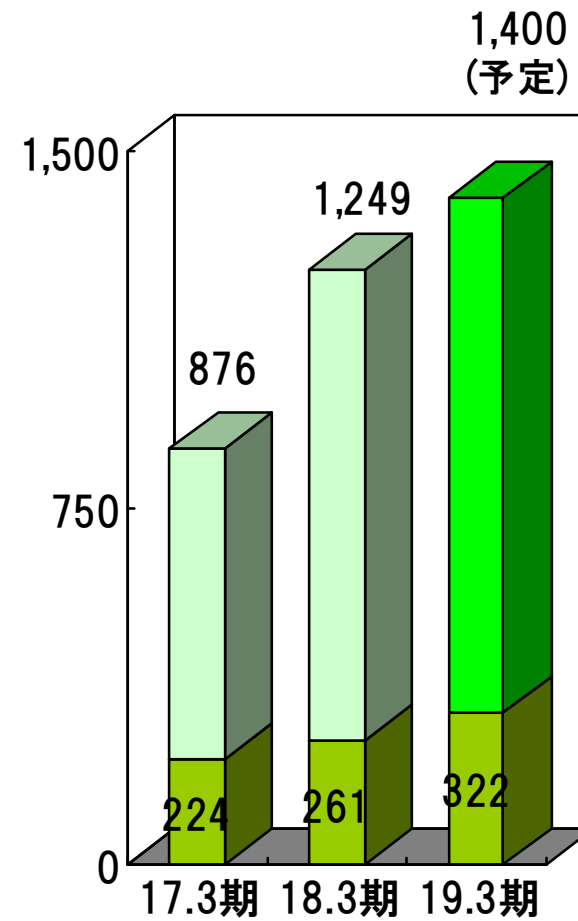
単位：百万円



設備投資



減価償却



研究開発

注：各グラフの数値は、下段に第1四半期累計の実績、上位に通期での実績(19.3期は予定)を記載



I. 2019.3期 第1四半期連結決算概要

 II. 2019.3期 連結決算見通し

III. ESGへの取り組み

1. 2019年3月期 計画(前期比)



単位：百万円

	18.3期 実績	(上期) (下期)	19.3期 計画	(上期) (下期)	通期 前期比
売上高	42,248	(20,687) (21,561)	45,500	(21,800) (23,700)	3,251 107.7%
営業利益	8,426 (19.9%)	(3,930) (4,496)	8,900 (19.6%)	(4,050) (4,850)	473 105.6%
経常利益	7,872 (18.6%)	(3,867) (4,005)	8,700 (19.1%)	(4,000) (4,700)	827 110.5%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	5,456 (12.9%)	(2,862) (2,593)	6,100 (13.4%)	(2,900) (3,200)	643 111.8%
EPS	230.47円	—	257.67円		
為替	ドル110.81円 ユーロ129.45円	—	ドル105.00円 ユーロ125.00円		



2. 2019年3月期 計画(設定条件)

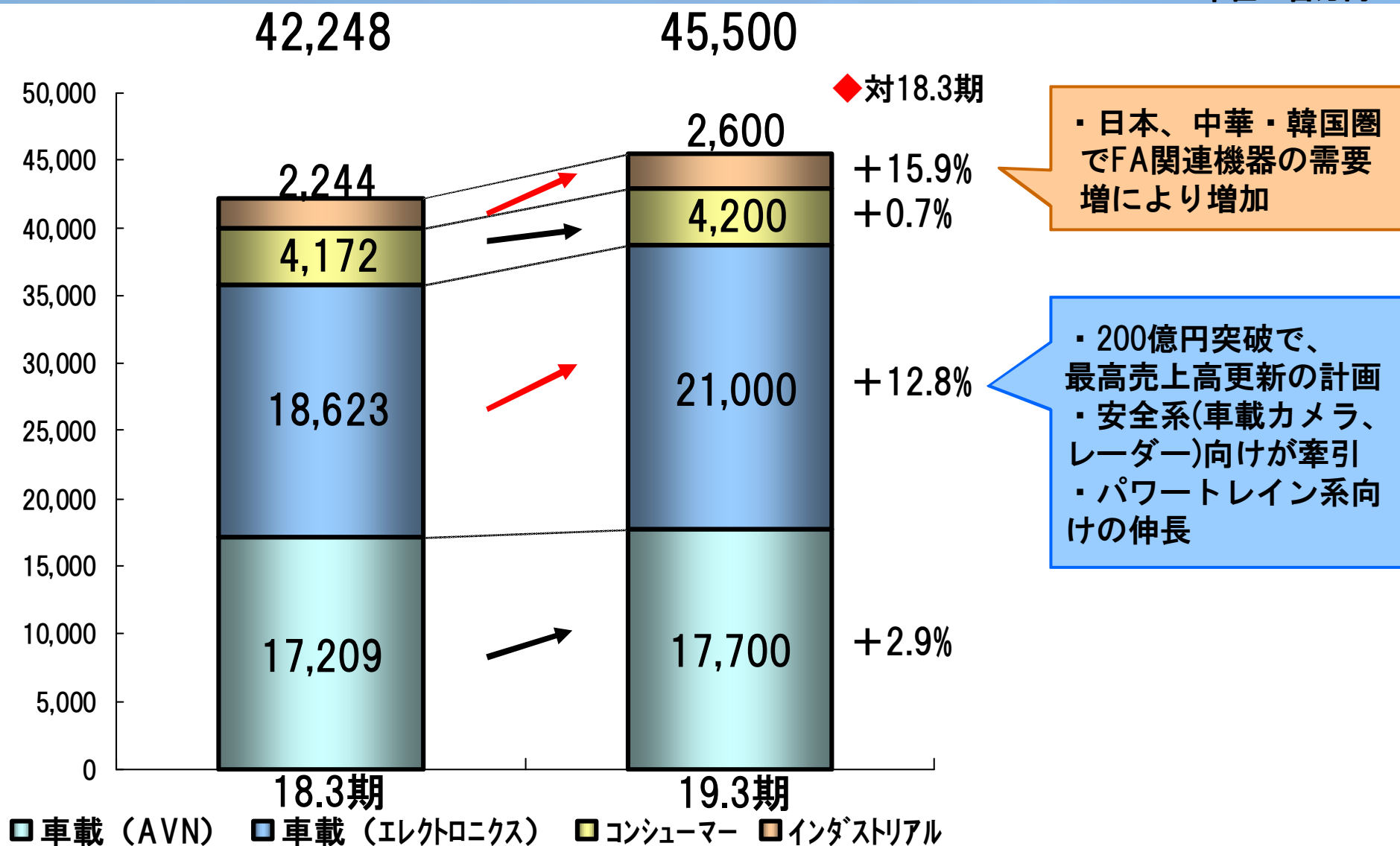


項目	設定条件
	USD 105.00円 / \$
為替	EUR 125.00円 / €
	元 16.50円 / 元
設備投資	7,500百万円
減価償却	4,200百万円
研究開発費	1,400百万円

3. 2019年3月期 計画(市場別売上高)



単位：百万円





I. 2019.3期 第1四半期連結決算概要

II. 2019.3期 連結決算見通し

 III. ESGへの取り組み



イリソの 経営理念

—未来に続く架け橋として—
人の心を尊重し 豊かな価値を創り 社会貢献に努める

イリソの ビジョン

顧客価値を創造する100年企業

イリソの 事業戦略

■事業拡大

長期目標:売上高1,000億円に向けた施策の実行

- ①伸びる市場(車載市場)の攻略
- ②第二の柱(産業機器向け)の確立
- ③生産力とコスト力の強化

■ESGへの積極的な取り組み

- ① ESGリスクへの対応
- ② ES課題対応領域での事業機会の創出

イリソの経営理念

—未来に続く架け橋として—
人の心を尊重し 豊かな価値を創り 社会貢献に努める

Environment(環境)

- ・環境マネジメント
→ISO14001取得とREACH規制、RoHS指令の遵守による工場の運営から製品に至るまで大気・水質・土壌リスクマネジメント、化学物質リスクマネジメントの実施
- ・ゴミ分別活動の推進
→横浜市から3R活動の「優良事業所」として9年間認定されています

Society(社会)

- ・社会貢献
→理工系大学生及びスポーツに励む大学生に対する奨学金給付活動を行う財団への支援
- ・ダイバーシティ向上
→女性役員、女性管理職の登用
- ・ワークライフバランス
→生産性30%向上活動による残業時間削減、時差出勤制度の導入
- ・安全衛生
→「安全は全てに優先する」をスローガンに重点的に活動

Governance(ガバナンス)

- ・監査等委員会設置会社への移行
- ・指名委員会、報酬委員会の設置
- ・社外取締役増員(2名→3名)
- ・内部監査体制強化
- ・コンプライアンス委員会の設置と社内教育の実地
- ・リスクアセスメントの実施
- ・公益通報者保護制度
- ・反社会的勢力排除規程の整備及び取引先等の定期的なチェック

【環境・社会的課題と必要となる技術・機器】

分類	課題		対応策	必要な技術・機器
E 環境	人口増加 化石燃料利用 CO2増加	温暖化 大気汚染	低炭素社会の実現	電動化、ロボット化
			電動化、水素利用 (FCV)	モーター駆動 バッテリー
	化石燃料枯渇		水素 再生可能エネルギー	水素製造 太陽光パネル
S 社会	少子高齢化	医療・介護	遠隔医療ロボット 補助ロボット	ロボット VR
		先進国労働力不足	省人化～ロボット化 自動化	FA機器 ロボット
	都市部へ 人口集中	地方過疎化 医療機関減少 食料不足	遠隔医療 自動運転 ロボット(農業)	自動運転 FA機器 ロボット(農業)
	車による 死亡事故		衝突防止 自動運転	ADAS 自動運転

→イリソが取り組む領域

自動運転・ADAS、電動化、ロボット化、FA機器

「自動運転・ADAS、電動化、ロボット化、FA機器」の各領域に対して、3つのソリューションを提供して貢献していきます

【イリソのコネクタが提供できるソリューション・価値創造例】

イリソの3つのソリューション	実現するイリソのコネクタ	機器メーカー(顧客)への価値創造例	E-Sへの価値創造例
ロボットによる 自動組立対応	<ul style="list-style-type: none"> ・可動BtoBコネクタ ・Auto I-Lock ・2点接点コネクタ 	<ul style="list-style-type: none"> ・自動化による生産性向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー効率の向上 ・資源の有効活用 ・労働力不足対応 ・信頼性向上
ワイヤーレス、溶接レス、半田付レスによる組立安定性向上	<ul style="list-style-type: none"> ・可動BtoBコネクタ ・FPCコネクタ ・インターフェイスコネクタ 	<ul style="list-style-type: none"> ・機器の小型化、軽量化 ・部品点数、組立工数削減によるTCO削減 	
接触信頼性向上	<ul style="list-style-type: none"> ・可動BtoBコネクタ ・Z-Move[®] ・Auto I-Lock ・2点接点コネクタ 	<ul style="list-style-type: none"> ・半田クラック対策 ・共振対策 ・作業ミス対策 ・異物対策 	

会 社 名	:	イリソ電子工業株式会社
事 業 内 容	:	各種コネクタの製造・販売
設 立 年 月	:	1966年（昭和41年）12月
社 員 数	:	3,367名（平成30年3月31日現在）
資 本 金	:	5,640百万円（平成30年3月31日現在）
本 社	:	神奈川県横浜市港北区新横浜2-13-8
営 業 拠 点	:	
国 内		本社、岩手県、茨城県、愛知県、大阪府
海 外		シンガポール、香港、アメリカ、ドイツ、タイ、韓国 中国（上海、大連、天津、蘇州、深圳、重慶）、マレーシア、 台湾、インド
研 究 開 発	:	本社（イリソテクノロジーパーク）、 川崎（生産技術センター）、上海R&Dセンター
工 場	:	茨城県、中国（上海、南通）、フィリピン、 ベトナム（ハイズオン）

コネクタの種類

基板対基板コネクタ（BtoBコネクタ）

プリント基板の接続用に開発されたコネクタの総称でボード・ツー・ボードコネクタ（ボードtoボードコネクタ）とも呼ばれる。垂直接続、平行(スタッキング)接続、水平接続など組み合わせで、さまざまな接続が可能となる。B to B（ビー・ツー・ビー）は、当社の登録商標として市場で広く浸透している。

FPC/FFCコネクタ

FPC基板（Flexible printed circuits）やFFCケーブル（Flexible flat cable）の接続用に開発されたコネクタの総称。コネクタの挿入時に力を加えずにロック可能なZIF（Zero insertion Force）タイプ、挿入したときに力が発生するNON-ZIFタイプがある。

I/Fコネクタ

I/Fとは、インターフェイスの略で、機器間の信号の接続を行うコネクタのことで、I/O（インプット/アウトプット）コネクタとも呼ばれる。カーナビ、PCなどさまざまな機器の側面（裏・表面）に装着され、機器への電源供給、音声・映像信号データなどの入出力を行う。

ピンヘッダー

線材をカット加工した“ピン（電導体）”をハウジング（樹脂材でできた絶縁体）で支えたプラグ（オス側）コネクタの基本形であり、さまざまな分野・機器の内部接続（基板間接続）に使用されている。横から見ると、生け花の花止め“けんざん”のように見えるのが特長。メス側はソケットと呼ばれる。

この資料に記載されております業績の予想数値につきましては、本資料の発表日現在で得られた入手可能な資料に基づいて作成したものであり、今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の見通しのみに依拠してご判断されることはお控え下さるようお願いいたします。

なお、本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。